



## みどころ

### ○「水俣病を伝える」活動に取り組む人びと

本展は、水俣病そのものではなく、「水俣病を伝える」活動とそれに取り組む人びとに焦点を当てています。水俣病の被害者やその家族の方もいらっしゃいますが、そうではない、よそから移り住んで活動する人も少なくありません。彼らがどんな思いで水俣病を伝える活動をしているのかを知っていただくのが本展の主なテーマです。

### ○ことばやモノ、イメージ、場所のもつ力

水俣病の歴史はこれまで数々の心に残ることばやモノ、写真、映像、場所などを残してきました。それらをみたり聞いたりすると、我々の心は揺さぶられます。たんに悲しみや怒りを覚えるだけでなく、自分自身の暮らしや社会のあり方を考えるようになってしまいます。我々を変える力を備えているのです。そうした力やエネルギー、それらに接して我々が学べるものの可能性について考えてみたいと思います。

### ○フィールドワーク展示

本展は、現地でのフィールドワークを追体験する「フィールドワーク展示」がコンセプトです。各パートは、現地で「水俣病を伝える」活動についてわたし(プロジェクトリーダー/平井京之介)に教えてくれたキー・インフォーマント(情報提供者)の紹介と、彼らのインタビュー映像から始まります。解説文は通常とは少し異なり、わたしが一人称で、実際に現地でフィールドを次々と紹介するように展開していきます。こうした工夫によって、ご覧になった皆さんが、実際に水俣へ行ってみたいくなるような展示を目指しています。

## 展示構成 (コーナー名は後日変更になることがあります。)

はじめに 趣旨説明

- (1) 水俣の現在 映像にみる水俣の自然とまちづくり
- (2) 歴史考証館 水俣病センター相思社の伝える活動
- (3) 敵存する風景 写真家芥川仁の民族誌的な写真
- (4) 明神が鼻 水俣病が多発した明神崎という場所の力
- (5) 啓発事業 行政による水俣病啓発事業
- (6) おわりに 今後の課題

## 資料点数

約150点

## プロジェクト

### プロジェクトリーダー 平井京之介（国立民族学博物館 教授）



専門は社会人類学、東南アジア研究。主な編著書は『Social Movements and the Production of Knowledge』『実践としてのコミュニティ——移動・国家・運動』『村から工場へ——東南アジア女性の近代化経験』など。タイの農村にある日系工場やコミュニティ博物館について研究してきました。その傍ら、この20年は熊本県水俣市で博物館活動について調査しています。今回は NPO や行政による「水俣病を伝える」活動の現状と課題を紹介します。

### 【プロジェクトメンバー】(五十音順)

- 遠藤邦夫（一般財団法人水俣病センター相思社・理事）  
河村友佳子（国立民族学博物館・プロジェクト研究員）  
小泉初恵（一般財団法人水俣病センター相思社・職員）  
橋本沙知（国立民族学博物館・プロジェクト研究員）  
日高真吾（国立民族学博物館・教授）  
吉永利夫（一般社団法人水俣病を語り継ぐ会・理事）  
吉永理巳子（一般社団法人水俣病を語り継ぐ会・代表理事）  
和高智美（合同会社文化創造巧芸・代表）

### 【協力者】

- 芥川仁（写真家）

### 開催概要

展 示 名	みんぱく創設50周年記念企画展「水俣病を伝える」 A Thematic Exhibition for the 50th Anniversary of the Museum's Founding: Conveying the realities of the Minamata disease
会 期	2024年3月14日(木)～6月18日(火)
会 場	国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1) 本館企画展示場
開館時間	10時～17時(入館は16時30分まで)
休 館 日	水曜日 ※ただし、3月20日(水・祝)は開館、翌21日(木)は休館
観 覧 料	本館展示観覧料でご覧いただけます。 一般580円(490円)、大学生250円(200円)、高校生以下無料 ※()は20名以上の団体料金／リピーターは団体料金を適用
主 催	国立民族学博物館
協 力 後 援	一般社団法人水俣病を語り継ぐ会、一般財団法人水俣病センター相思社 環境省、熊本県、水俣市

## 関連イベント（後日変更になる可能性があります）

### ■みんぱくゼミナール

#### 企画展関連「水俣病を伝える」

会 場	国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール（講堂）
日 時	3月16日（土）13時30分～15時（13時開場）
講 師	永野三智（一般財団法人水俣病センター相思社常務理事）、 平井京之介（本館教授）
定 員	400名
参加方法	事前申込制（先着順）／参加無料 ※当日参加受付あり（定員80名）
内 容	熊本県水俣市にある水俣病センター相思社では、水俣病歴史考証館を中心に、水俣病の教訓を後世に伝えていく活動をおこなっています。この活動を紹介したうえで、その意味と課題について考えてみたいと思います。



水俣病歴史考証館（2020年）

### ■みんぱく映画会

#### 「水俣一揆—— 一生を問う人々」

会 場	国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール（講堂）
日 時	6月8日（土）13時～16時（12時30分開場）
司 会	平井京之介（本館教授）
解 説	吉永利夫（一般社団法人水俣病を語り継ぐ会理事）
定 員	350名
参加方法	事前申込制（先着順）／要展示観覧券
内 容	1973年に熊本地裁でチッソにはじめて加害責任があることを認める判決が出た後、東京のチッソ本社で繰り広げられた被害者と会社との直接交渉を記録したドキュメンタリー映画。

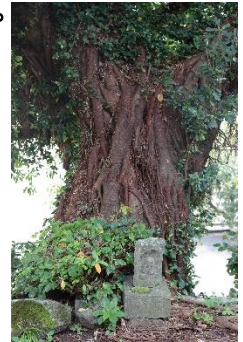


## ■みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

### 「企画展「水俣病を伝える」—— フィールドワーク展示の試み」

企画展「水俣病を伝える」を案内しながら、水俣病を伝える活動についてご紹介します。

**会場** 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)  
**日時** 3月24日(日)14時30分～15時  
**話者** 平井京之介(本館教授)  
**定員** なし(ご自由に参加いただけます。)  
**参加方法** 申込不要／要展示観覧券  
**内容** 熊本県の水俣・芦北地域では、水俣病発生の経緯や被害者の苦しみ、公害の経験をいかしたまちづくりなどを伝える活動がおこなわれています。どのような人びとが、なにを、いかにして伝えているのか、企画展「水俣病を伝える」を案内しながら、ご紹介します。



明神が鼻のアコウと魂石

### 「水俣病を伝える —— 水俣病センター相思社の事例から」

水俣病を伝える取り組みについて、現地で活動している人の視点からお話します。

**会場** 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)  
**日時** 4月28日(日)14時30分～15時  
**話者** 小泉初恵(一般財団法人水俣病センター相思社職員)、平井京之介(本館教授)  
**定員** なし(ご自由に参加いただけます。)  
**参加方法** 申込不要／要展示観覧券  
**内容** 熊本県水俣市では水俣病を伝えるさまざまな取り組みがあります。そのような活動は、なぜ、何を目的して行われているのでしょうか。企画展「水俣病を伝える」をご観覧いただきながら、現地で活動を続ける水俣病センター相思社職員の悩み、葛藤、工夫、喜びなどをお話します。



水俣湾埋立地をガイドする相思社職員

### 「ネコ実験小屋の修復について」

水俣病の原因を明らかにした実験で使用された「ネコ実験小屋」の保存のお話しをします。

**会場** 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)  
**日時** 5月12日(日)14時30分～15時  
**話者** 日高真吾(本館教授)  
**定員** なし(ご自由に参加いただけます。)  
**参加方法** 申込不要／要展示観覧券  
**内容** 「ネコ実験小屋」は、ネコを用いた実験で、水俣病の原因が工場排水である事実を明らかにした際に使用されていたものです。2022年、私はネコ実験小屋の錆止め作業のワークショップを開催しました。ウィークエンド・サロンではこのときの作業についてお話します。



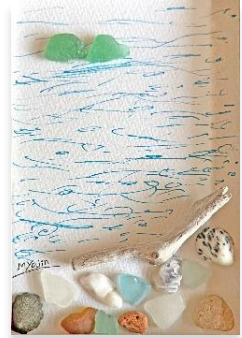
ネコ実験小屋の錆止め作業の様子

## ■ワークショップ

### 「水俣の海を感じる ―― 語り部講話とシーグラス体験」

企画展「水俣病を伝える」を見学した後、水俣病の歴史と、水俣病多発地域のひとつである明神崎の自然や文化、歴史について、講師が概説します。その後、水俣の海で集められたシーグラスと流木を材料にして、参加者が簡単な絵画を制作。最後に、参加者全員で完成品について意見交換会を実施します。

**会場** 国立民族学博物館 本館2階 第3セミナー室  
**日時** 3月30日(土)13時～15時50分(12時30分受付開始)  
**講師** 吉永理巳子(一般社団法人水俣病を語り継ぐ会代表理事)、  
吉永利夫(一般社団法人水俣病を語り継ぐ会理事)、  
平井京之介(本館教授)  
**対象** 中学生以上を推奨 ※講話が中学生以上を対象とした内容となるため  
**参加費** 500円/要展示観覧券  
**定員** 18名  
**参加方法** 事前申込制(先着順)



上記2点 作品一例

## ■友の会講演会

### 「企画展「水俣病を伝える」の舞台裏 ―― フィールドワーク展示の試み」

**会場** 国立民族学博物館 本館2階 第5セミナー室  
**日時** 6月1日(土)13時30分～15時(13時開場)  
**講師** 平井京之介(本館教授)  
**内容** 熊本県水俣・芦北地域では、展示やガイドツアー、写真、語り部講話などを通じて、水俣病の歴史や被害者の苦しみ、公害の経験をいかしたまちづくりなどを伝える活動がさかんです。本講演では、まず水俣でのわたしのフィールドワークについてお話し、その後展示場へ移動して、企画展「水俣病を伝える」の見どころを紹介します。

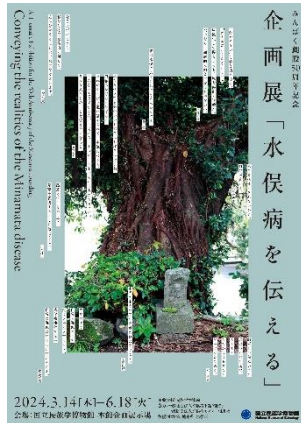


水俣市茂道漁港での相思社まち案内

**定員** 90名  
**応募・参加方法** ①会場参加(第5セミナー室・企画展示場)②オンライン(ライブ配信)参加 ※会員限定  
・会場、オンライン配信ともに事前申込制(先着順)。  
・友の会会員:無料、一般:500円(要展示観覧券)。  
※講演時間内で講義と企画展示場の見学をおこないます。  
オンライン配信は講義の時間のみとなります。

**問い合わせ** 国立民族学博物館友の会(公益財団法人 千里文化財団)  
電話 06-6877-8893

# みんぱく創設50周年記念企画展「水俣病を伝える」 広報用画像リスト



【1】企画展チラシ



【2】水俣市明神が鼻の魂石



【3】水俣市茂道漁港での相思社まち案内



【4】水俣病歴史考証館での展示解説



【5】水俣病歴史考証館「ネコ実験の小屋」の修復作業



【6】フィールドワーク



【7】教職員を対象とした水俣病啓発事業における紙芝居実演



【8】水俣病を語り継ぐ会による朗読会

これらの広報画像はデータにて提供可能です。ご入り用の画像があれば、総務課広報・IR係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。



# みんぱく創設50周年記念企画展「水俣病を伝える」 広報用画像利用申込用紙

〔E-mailでお申し込みの場合〕 koho@minpaku.ac.jp

〔FAXでお申し込みの場合〕 FAX番号: 06-6875-0401

## 【ご希望の画像番号】

--

## 【貴社・貴機関についてお知らせください。】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
ご住所 〒	E-mail
電話番号	FAX番号
ご掲載・放映の予定日が決まっている場合	年 月 日

【プレゼント用招待券】(ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください)

3組6枚     5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

## 【広報に関するお願い】

- 写真使用に関するお願い、注意事項
  - ・クレジットには次のとおり記載してください。
  - 【2】～【8】 国立民族学博物館 提供を入れてください。
  - ・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
  - ・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- 本館の基本情報等の確認のため、E-mailまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先でお送り願います。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。